

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4071900908		
法人名	有限会社ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス日吉町		
所在地 (電話番号)	福岡県田川市大字糶2301番地の6 (電話) 0947-45-8834		
評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年8月2日	評価確定日	9月7日

### 【情報提供票より】(平成19年7月28日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算	4.5人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨木造造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000円	その他の経費(月額)	光熱費10,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800円	

#### (4) 利用者の概要(7月28日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	0名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	名		
年齢	平均 80.6歳	最低	67歳	最高	95歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中越医院 / 丸の内歯科医院
---------	----------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

いきいきハウス日吉町は、緑多い静かな住宅地に立地しており、田川市立病院に隣接した環境を有している。昔ながらの平屋建てのホームの前に立つと、子供の頃に誰もが過ごしたであろう懐かしい風景を思い描くことができる。ホーム内の空間は、プライバシーを考慮した生活空間としての工夫に満ちており、入居者の意向を尊重した質の高いケアを目指している。管理者は、高齢者ケアに関して問題意識を持ち、自分で自ら運営するからには、低料金の利用料の実現・一人ひとりを大切に地域との関わりを大切にしたグループホームを目指している。毎月のドライブや誕生日プレゼントとしての外出プランなど楽しみ事が多いグループホームである。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で書類の種類が少ないという改善課題が指摘された。服薬管理や介護記録・アセスメント・ケアプランなど会議でしっかり話し合い、書類の充実に重点を置いた改善に一年間取り組んだ。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での書類の不備に対して、書類の充実を図ってきたが、不必要な書類が多いことや、入居者別の個人ファイルの整理など、さらに工夫されることが求められる。緊急時や様々な場面に対応できるように、合理的な書類管理が大切だと思われる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催しているが、メンバーが固定されている。かかりつけ医の参加で医療的な部分では、活発な討議ができていたが、地域包括支援センターの保健師の参加がないので、今後は、積極的に呼びかけるようにしている。また保健師との新たな繋がりや、認知症の研修を実施する予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	職員全員が、権利擁護や成年後見制度の研修会に参加することによって、高齢者の尊厳や生きる権利について学び、入居者一人ひとりの不安に対応している。また家族からの意見や苦情は、家族の訪問時に充分対応するようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域密着型グループホームを目指して、地域の自治会組織との関係を大事にしながら、地元行事にも積極的に参加している。グループホームの情報発信として介護相談やボランティアなどの受け入れを検討しており、開かれたホーム運営を目指している。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「長生きして良かったと思える。家族に安心していただける。笑顔と真心を持って接することを心がける。」という理念を掲げ、住み慣れた地域の行事に参加するなど、個々の生活暦をふまえた暮らしの実現に取り組まれている。		地域密着型サービスとして何が大切であるかを事業所全体で考え、その役割を果たすサービスのあり方を具体的に表わす内容を加えることによって、地域密着型サービスとして、より分かり易い理念となると思われる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また運営者や管理者が一体となってサービスの提供場面(声かけ・態度・記録)で指導・教育をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(文化祭・盆踊り・小中学校との交流・ボランティア・除草・清掃・空き缶拾い)等に参加したり、入居者の方々が直接回覧板を届けに行くなど、できるだけ多くの接点を持つようにしている。		玄関に「本日の予定」や「介護相談受けます」などの看板を設置するなど工夫によって、認知症に対する理解や、地域との関係づくりをより深めることができるように思われる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の改善項目を中心とし、ミーティングなどで検討している。書類の種類が増え、きちんと整理整頓され、運営者・管理者・職員の共通理解ができるようになった。書類の有効な活用によって職員の動きも有効に機能している。		多種類の書類がファイルされている。職員ひとり一人が、いつでも、すぐに見ることができるように工夫すれば、緊急時等に素早い対応ができるように思われる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催している。前回の運営推進会議で取り上げられた検討項目や懸案事項について報告し合い、積み上げていくようにしている。		地域の代表者や保健師の参加がないので、ぜひ要請していただきたい。固定メンバー以外の方々にも呼びかけ、参加していただく事によって地域との関係が深まり、活性化されると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者が、定期的に訪れ、情報交換を行っている。運営推進会議を含め、行政との連携を活かし、多様な連携の中で課題解決のために取り組み、サービスの質の向上に繋がりたいと思っている。		運営推進会議以外に地域包括支援センターの保健師に訪問してもらうことによって、認知症の研修を実施したり、アドバイスを受けることができるようになると思われる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	以前、若年性認知症の方の受け入れの時に、社会福祉協議会の権利擁護担当者により、制度の仕組みや利用方法について研修を行っている。		高齢者や認知症の方々の尊厳・人としての権利(人権問題)として取り組み、ホーム全体で研修を実施したり、外部研修に参加するなど研鑽に努めて頂きたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理については、預かり金制度にしている。個別で使用する物や散髪やパーマなども近所の理髪店・美容室へ行っている。出納帳やその他の報告書などは、家族の方々が1ヶ月に1度来訪される時に、随時報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や苦情・不満は、全て運営者が受け付けをしている。問題が起こった時は、介護者全体で検討し、サービスの質の向上に繋げるようにしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員教育の成果が徐々に出てきており、職員が生き生きと勤務されている。入居者と職員との馴染みの関係は構築されつつあるが、今後の離職の場合に関しては十分な対応も考えている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員採用に関しては、性別・年齢を基準にしてはいない。「入居者との年齢がより近くなることで、さらに共感できる関係が構築されていく」と考え採用を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	代表者自ら研修に積極的に参加している。研修時にケアのポイントなどの指導をしている。履歴書と数十分の面談で、多面的な評価はできない。が採用してからのスキルアップで職員の能力を高める努力をしている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	研修に関する個人別年間計画が立てられている。内部・外部研修にもできるだけ参加するようにしているが、報告会や伝達講習の機会が少ないようである。		研修計画と研修実施報告書を一緒にファイルすることで、スタッフ全員が自由に閲覧することができ、研修を充分活用することができるように思われる。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同業者との交流やネットワークづくりが、ホームや職員の質の向上に繋がらないような気がするという理由で交流などは積極的に行っていない。以前、運営者が勤務していた特養の行事に参加する程度である。		運営推進会議に参加している行政関係者に地域のホーム等を紹介してもらうなど、他のホームとの連携づくりに力を入れていくのも重要だと思われる。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人や家族がホームを見学したり、サービスを納得してもらいながら利用に繋げる様にしている。また初めて来られる方々を歓迎する意味で目付きやすい掲示物を作ったりしている。入院された方のお見舞いを頻繁行ったり、記念日には、なじみのある温泉などへ行くなど一人ひとりを大切にしながら支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者一人ひとりの生活歴や残存能力を充分発揮できるような場面を提供することによって、日々の関わりの中で認め合いながら、暮らしのおける意欲を高めるように支援している。		生活歴の中が見えてくる動向を、個別の援助計画の中に入れておくと、更なる自立の援助のステップとして明確になるのと思われる。
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	日々の関わりの中で声をかけ、思いや意向の把握に努めている。何事にも介護側の都合に合わせるのではなく、入居者の言葉や表情から意思を確認するようにしている。		職員全員が共通理解できる介護計画を作成することによって、その人らしい暮らしにより近づくことができると思われる。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	入居者や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、入居者主体の暮らしを反映した介護計画になっている。		アセスメントを含め職員全体で「気づき」を担当者会議の検討項目にし、担当者会議を充実させることで、ケアプランに反映させる。また行動分析することで予測される行動をプランに位置づけることも大切だと思われる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	全ての入居者に対してタイムリーに見直しができている状況ではないが、職員全員の持つ情報を確認し合いながら、見直しができるように考えている。		モニタリングをすることによって介護計画の見直し ケアプラン 介護計画 実施 モニタリングの一連の流れを充実させることで、その人らしい暮らしの提供をチームとして考える事ができ、その一連の流れを構築することが望まれる。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	ボランティアの受け入れは行っていないので、積極的な受け入れを考えている。また意向調査をすることによって楽しみ事の発見や機能回復に繋がる支援を考えている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	かかりつけ医との連携は密にできている。また服薬管理や副作用対応・相談も十分にできている。		
		本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	先頃、重度化向け、終末期の方針を決定する話し合いを行い全体で検討している。		介護し続けるという視点で、入居者や家族の意向・本人にとって、どうあったら良いのか、最大の支援方法を話し合うようにし、人生の最終章を自分らしく過ごせるような支援が医療との連携のもと構築することが望まれる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	浴室やトイレの前にはカーテンが準備されている。言葉かけも日々の業務の中で特に注意をされており問題はない。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	ある程度促しをしながら介護を行っている。できるだけ希望に添うような支援をしたいと思っている。		心の奥深い部分にあるニーズを掘り起こすことが、希望に添った支援に繋がる。センター方式を利用することによって、一人ひとり違った、その人らしい暮らしを実現できるように努めていただければと思われる。
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	嗜好調査をすることによって一人ひとりの好みに合った食事の提供が行われている。また、身体状態などに応じた食事の内容の充実を図りたいと考えている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	3日に1回の入浴であるが、促しにより、ほぼ希望に応じた入浴の時間帯が確保されている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の方々の誕生日には、好きな所への外出をプレゼントするなど、一人ひとりの生活暦の中から見出し、楽しみ事や気晴らしの支援を充分に行っている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	気候が良い時は、お弁当を持ってピクニックをしたり、一人ひとりの馴染みの場所や、お気に入りの場所への外出支援を積極的に行っている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	徘徊防止として、施錠したことがあったが、行動パターン分析などを職員全員で取り組み成果を得られた。現在は、施錠しなくても良い介護ができるようになった。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回消防訓練を消防署と地元消防団との協力で、実施している。タバコを吸う方にもマッチやライターは渡さないようにしている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	1000cc以上の水分摂取と1500cal～1600cal摂取を基準に栄養管理を行っている。嗜好調査や身体状況を考慮しながらの献立作成が功を奏し、毎回ほぼ完食である。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用のリビングには、畳コーナーがあったり、椅子やテーブルがバランスよく配置されている。茶碗を洗う音やご飯が炊ける匂いなど、五感や生活感を意識的に採り入れる工夫がなされている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	リビングの居心地が良いためか、昼間は居室に閉じこもる方が、ほとんどいない。リビングでは、お好みの場所で入居者同士でお話されたり、喫煙を楽しまれたりされて、ゆったりと過ごされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			